



生徒指導室か…たしかこの場所だったはずだ。間違っていないはず。
先週の放課後、先生とは違う雰囲気の良い女性が校内を歩いていて…
追いかけてみたけど、この辺りで見失ってしまったんだ。



あの女性の顔と姿が忘れられず、ずっと探していたけど……
もうすべての場所は調べた。今日こそはあの女性の正体を突き止めてやる！
…しかし勝手に入ってもいいのだろうか。…あ……誰かがやって来た。

あら……
こんなところで
何しているの？
もう帰る時間よ

生徒指導室

探していた女性とは違う人だったが、思い切って尋ねてみることにした。
話によればその女性は生徒指導専門の人物ということらしくった。
しかし残念ながら、それ以上のことは教えてくれない。どうしたものか……

あなたは成績も素行も全く問題がないでしょ？
ここは無縁の場所よ
ほら帰った帰った

生徒指導室

目と鼻の先に追い求めていた女性がいるというのに帰るのは癪だ。
：しかし会いたいと言っただけでは無理だろう。：それなら嘘をつくか。
いま問題になっている水着の盗難：アレを自分がやったことにしよう……

話は聞かせてもらってたわ
例の犯人だったただなんて
がっかりだわ

盗難は立派な犯罪なのよ？
すぐに親御さんを
呼ぶ必要があるわね



思ったより大変なことになってしまった。親を呼ばれるのはマズい。
目当ての人に会えたのは良かったが最悪の出会いになってしまった。
とりあえず真実を伝えて…今日のところは家に帰らせてもらおう……

え？嘘なの？
……どっちななの？
あなたの話は
信じられないわ



……はあ？
私に会うために
嘘をついて入った？
……もう少し
まともな嘘を
つきなさいよ……

ダメ……全然信じられないわ
……どうしようかしら
嘘か本当か試してみようか
もちろん良いわよね？



それじゃ
服を脱いで
こっちに
来なさい
：あなたに
拒否権は
ないはず
よね？
早くしな
さい

とんでもないことになってしまった。親を呼ばれるわけにはいかない。
それに…この人のことが好きなのは嘘ではない。それなら良かったか？
服を脱ぐという事は…あんなことやこんなこともあるのか……？

妙な期待をしながら服を脱ぎ準備を終えると、彼女が謎の箱の近くに立っていた。箱の中に仰向けで寝るように指示される。なんだか思っていたのと違うようだ。顔だけ箱に押し込まれ蓋が閉まり鍵がかかる。腕には拘束具が取り付けられる。

あれよあれよという間に全く身動きがとれなくなっていた。とても恐ろしい。箱の底から見上げると、彼女の大きなお尻が見える。何が始まるのだろうか。お尻がゆっくりと迫る。それは自分の想像を遥かに超える狂気の時間の始まりだった。



ふふ♡始めようか♡
嘘か本当か：
あなたの言葉の真意
確かめさせて
もらおうわね♡

私の体臭で
満たされている
箱の中は快適かしら？
この道具は元々
お仕置き用の
道具だけど…

私は男を虐めるのが
とっても好きでね♡
私のことが好きなら…
こういうことも…
とことん付き合っ
てくれるんでしょう？

むわっ

むわっ



凄い匂いでしょ
服も下着も：
これのために
洗ってないから
うっぱい嗅ぎなさい
うふふふ♡

あらあら
勃起し始めて
いるわ…
…なるほどね
この匂いで
興奮できるんだ
素質はあるみたい
ね♡

むわっ

むわっ

むわっ



ふふ♡それじゃ…
もつと臭くしよっか♡
何をするとと思う？
ヒントは…
私が座ったままで
できること…かな♡

…正解はね
お・な・ら…よ♡
密室のその箱の…
唯一の入口にあるのは
私の大きなお尻♡
どんな匂いが
するかな？

むわっ

むわっ

びゅん
びゅん
びゅん



え？嫌なの？
それじゃなんで？
まだ勃起しているの？
本当は期待してない？
勃起を止めたら？
出さないであげるわ

じゃ：少しだけ
待つてあげるわ
十秒あれば充分かな？
十：九：八：七：六：
ふふ：まだ勃起してるね
五：四：三：二：一：

むあ、

たすこい！！
やめて！！
そんな！！

むあ、

びくびく
びくびく
びくびく







ふふふ♡
もう少し出るよ♡
ちよつと待ってね♡
んっ……ふう……
んっ……ん……



んんっ♡

ボッ...ピッ...

ふう…とりあえず…
それで全部かな♡
…まだ勃起継続中か
随分と変態さんなのね
それとも本当に
私のことが好きなのかな？

半信半疑だったけど…
せっかくだから
これが続けようか♡
気持ちよく射精を
したいでしょ？



私がとても好きな
マゾ化調教……
してあげるわ♡
準備してくるから……
それまでは私のオナラに
まみれて待つてなさい♡

放心状態みたいだけど
まだ始まったばかりよ
これからどうなってる
しまうのかしらね♡



準備をしようと言っ立ち上がった女性。やっと換気されると思いきや…
彼女が塞いでいた空気の入出口には、丁寧に蓋がされてしまった。
呼吸をするたびに悪臭が喉を焼き、今日ここに来てしまったことを後悔する。


彼女が言っているマゾ化調教とは何のことなのか。
何もわからないまま毒ガスが満たされている箱の中で
悶え苦しみ続けることしかできなかった。

よし…準備できた♡
ガス空の鍵をあけるよ
もう私の匂いは全て
吸いきったかな？

ガキ…ガキ…

パカキ…

うっ…
まだ匂うわね…
まあ…いいわね…
ほら目をあけて
見える？



あれ〜？
体調でも悪いの？
早く目を開けてよ♡
こっちは準備万端よ